



東高同窓会だより

長崎東高等学校 関西同窓会

＜第9号＞

平成31年(2019年)

5月25日発行

編集発行人:手嶋 孝

◆◆ 第7回総会・懇親会 ◆◆

11月4日(日)大阪新阪急ホテルにて、第7回長崎東高関西同窓会総会・懇親会が108名の出席者のもと開催されました。第一部総会では、泉田豊彦事務局長(24回生)から同窓会活動概要と2017年度会計の報告があり、今年度予算案と平幸治会長(15回生)再任の提案が満場拍手にて承認されました。



第二部懇親会では、平会長の再任挨拶。来賓の長崎東中学校・高等学校和田亮一教頭は生徒の活躍を中心に母校の近況と70周年記念事業への取り組み、また、長崎東高同窓会波多野徹会長は同窓会としての母校への支援事業について紹介されました。在京同窓会北澤道也会長のご発声による乾杯に続いて歓談タイム。懐かしい顔が揃い、笑顔がはじけました。お楽しみ行事。まずは各同好会から活動紹介。関西さるく会は久保勝之会長(37回生)が来年の計画、入会の案内と皆勤賞表彰。ナイスショット&ファーの会は事務局林田一徳さん(32回生)からコンペの案内と第10回コンペ優勝者の表彰。写真クラブは会場入り口に13名の会員の作品を掲示してお迎えし、それぞれ高い評価を頂きました。続いて、「世代別想い出の歌」。70歳世代は、当時の青春映画の映像と共に登壇し、「いつでも夢を」を爽やかに歌い上げ、60歳世代は、当時の世相の写真を背景にかまやつひろしの「我が良き友よ」を大合唱。50歳世代はアッと驚くピンクレディーの「UFO」！。キラキラのコスチュームと振り付けは圧巻！若々しいバックダンス、自前の演奏、LED照明も効果的。会場、驚きと大歓声！大いに盛り上がり最高潮に！



更に会場の熱気冷めやらぬ中でのじゃんけん大会。永尾好輝さん(27回生)と藤重茂さん(27回生)によるテンポの良い司会進行で、豪華賞品を目指しての熱戦が続きました。

最後は中島新太郎さん(26回生)の指揮で、全員肩を組み合って力強く校歌を斉唱。2時間半の集いはあっという間に過ぎてしまいました。皆さん同窓の繋がりに感謝する共に、来年の再会を期してお開きとなりました。



第8回総会決定！

◆日時：2019年11月17日(日)13時～15時半

◆会場：大阪新阪急ホテル

学生時代のこと、友達のこと、そしてふるさと長崎のこと
総会で懐かしく語り合いませんか！

また、大阪でお会いしましょう。

関西圏外からの参加も大歓迎です。

◆◆ 関西さるく会 ◆◆



⑤第48回「滋賀・安土」 2018/10/28 20名

J R安土駅を出発し、安土城郭資料館で情報収集後、旧伊庭家住宅と浄厳寺へ。さらに音堂川湧水・梅の川・北川湧水をさるいて、常浜水辺公園で昼食。午後は安土城跡見学。京に近い事と琵琶湖水運に着目した信長は流石。天下布武の象徴として威容を想像できた

⑥第49回「大阪・箕面」 2018/11/24 40名

晩秋、関東からの36回生も加わり、箕面渓谷へ。唐人戻岩を過ぎると紅葉に囲まれた落差33mの大滝が目前に！紅葉の真紅と滝水の白との調和に感動！紅葉の見事なグラデーションを楽しみながらの昼食は贅沢なひと時。西江寺の紅葉にも感動のさるく会。

⑦第50回「兵庫・宝塚」 2018/12/16 34名

阪急逆瀬川駅を出発し、伊和志津神社を参拝。和気藹々のお弁当タイムが終わったら武庫川の土手沿いの長閑なウォーキング。その後は宝塚劇場へ。いましたよタカラジェンヌ！最後は手塚治虫記念館を見学。懐かしいキャラクターがお出迎え。やはり手塚治虫は時代を作ってくれた大きな存在であることを実感。

⑧第51回「奈良・橿原神宮」 2019/1/27 51名

江戸時代の伝統的な民家や商家が密集する街並みが見所の今井町へ。続いて神武天皇陵と航空母艦「瑞鶴」の慰霊碑に立ち寄った後、橿原神宮に初参り。今回は恒例の反省会を拡大し、さるく会実質50回記念行事を敢行。豪華な食事、ビンゴ大会、校歌斉唱等大いに盛り上がった年始のさるく会となりました。

⑨第52回「京都・北野天満宮」2019/2/24 32名

嵯峨野線円町駅から菅原道真公（天神様）を主祭神とする北野天満宮へ。50種1500本の紅白の梅が咲き誇る梅苑で春の到来を満喫！上七軒は京都らしい風情のある街並み。千本釈迦堂までゆったりとさるき、西陣会館で艶やかな着物ショーを鑑賞！最後は清明神社に立ち寄り、更に室町幕府跡を確認して反省会へ。

⑩第53回「兵庫・書写山」 2019/3/24 24名

J R姫路駅からバスとロープウェイを乗り継ぎ書写山へ。円教寺は西の比叡山と言われるだけあって本堂の魔尼殿を始め重厚な建物が並び荘厳な佇まい。三つの堂はラストサムライ等多くの映画や時代ドラマの撮影に使われていて、その造形美は息を呑む程。長い急坂を登っての価値あるさるく会に皆満足でした。



< 2019年計画 >

詳細は事前にホームページにてご案内します。

開催回	開催日	地区	コースポイント
第54回	4月28日	大阪	仁徳陵、堺市博物館
第55回	5月26日	京都	鴨川川床
第56回	6月23日	大阪	舞洲ゆり園
第57回	7月28日	奈良	平城京跡
第58回	8月25日	京都	鞍馬
第59回	9月22日	奈良	斑鳩の里、法隆寺
第60回	10月27日	兵庫	灘の酒蔵巡り
第61回	11月24日	滋賀	比叡山
第62回	12月15日	大阪	鶴橋、四天王寺

◆◆ 関西ナイスショット&ファーの会 ◆◆

3月30日第11回関西ナイスショット&ファーの会を高槻カントリー倶楽部で開催しました。

今回は、10回生の三田村さんが復帰され3組12名でのコンペとなりました。あいにく午後からの雨と肌寒さの影響で皆さんがスコアメイクに苦しむ中、24回生の佐藤さんが粘りのゴルフで見事初優勝を飾りました。準優勝は9回生の永尾さん、3位は22回生の平山さん。9～42回生の幅広い参加で、春先のゴルフを和気藹々と楽しみました。



次回は、秋に4組目標で企画したいと思います。多数のご参加をお待ちしております。

(32回生 林田)

◆◆ 写真クラブ ー第3回、第4回ミニ撮影会ー ◆◆



ー須磨海浜水族館にてー

9月2日、写真クラブ第3回ミニ撮影会を神戸市の須磨海浜水族園で実施しました。みなさん思い思いの撮影タイム。いい写真がたくさん撮れました。そして近くの食事処でランチ&ミーティング。活動概況の確認や課題検討、第7回総会出品作品の確認。今回初の試みである会員の写真講評等楽しい、また有意義なひと時を過ごしました。

1月20日、写真クラブ第4回ミニ撮影会を伊丹市昆虫館で実施しました。第3回に続き動態の撮影にチャレンジ。昆虫館では花と蝶のコラボに苦戦。しかしながら皆さん腕を上げられ、被写体の動きの一瞬を見事に捉えられました。秀作が写真クラブのホームページにアップされていますのでご覧下さい。

◆◆ 地域活動 ◆◆

播磨地区懇話会『播磨東風会』



9月24日、姫路城・三の丸広場に11名が集まりました。世界遺産登録されてから25周年。天守閣前のステージではお琴の連弾、和太鼓などイベントも盛りだくさん。播磨東風会の常連に加え、日本酒が好きな姫達が遠方にも拘らず駆けつけてくれました。“中秋の名月”が、雲の合間から輝いたのは午後7時を回った頃。ひと時の楽しい観月会でした。

“播磨東風会グルメ旅”『竹田城址と新蕎麦』を実施しました。石垣は、とても美しく、澄み渡った空気の中で凜とした景観を見せてくれました。でてきた新蕎麦は、「今日はこれで満足」と言わせる程の美味。深まる秋の一日を楽しみました。(25回生 松崎)



奈良地区懇話会『ばってんまほろば会』(通算第8回)



1月19日(土)新年会を奈良市新大宮の弁慶で実施しました。まず、前期高齢者の仲間入りをした松尾会長から新年の挨拶。今回の最若手が25回生の長岳さん。若い世代の参加が喫緊の課題との見解。今後の同窓会あるいは日本の縮図を見るような集まりだという意見も。しかし、乾杯で会が始まるや否やお喋りは止まらず、もつ鍋は見る間に底をつくほどの食欲!お酒は飲み放題!皆さん若々しくとても元気な集団です。近況紹介では、個性豊かにそれぞれの楽しみを述べられました。ゲートボール、愛用カメラでの写真撮影、ゴルフ三昧、太極拳、歴史散策、歩こう会等々。次回は7月6日(土)に開催することを取り決めてお開きとなりました。

(23回生 手嶋)

◆◆ 同期会 ◆◆

【21回生】

9月22(土)



会場は44回生西坂さんが経営する「満海」。当初、10名位かと思っていたのですが2回目の今回は、残念ながら3名での同期会となりました。開始の15分前には集合済み、早速「乾杯!!」。話題は、現在の近況から高校時代の話、現役時代(退職前)の話、親(介護)の話、年金の話・・・で、話題がアッチコッチ飛びながらアツという間の3時間となりました。それでも、まだ話し足りないのか、野田阪神駅の喫茶店に移動して話の続きを1時間。話足りたところで「また、来年も会おう!!」で握手して別れました。

(21回生 鳥山)

【36回生 大人の修業旅行in箕面】

11月24・25日(土・日)



「お泊りで同期会やってそのままさるく会に参加するのどうやらか」と、さるく会常連36回生の2人の雑談から始まったこの企画。関西と関東からの8名が阪急箕面駅に集合。高校卒業以来の再会となる同期もいましたが、瞬く間にあの時へ戻りました。みのお山荘から望海展望台まで散策。大阪湾の夕景を堪能。山荘に戻り大阪平野を一望できる展望風呂でひとつ風呂浴びて宴会。箕面ビールと美味しい食事をいただき、卒業アルバムを見ながら想い出話に花が咲きました。持参のお酒で二次会に突入し、総会で披露した「UF0」のビデオを観て盛り上がり、あの衣装を着用した人も登場して再公演。お腹がよじれるほど笑って、日付が変わりお開きに。またやりますよ、大人の修業旅行!

(36回生 川端、桑原)

☆☆☆ 東風ら関西 ☆☆☆

今回は、兵庫県宝塚市在住の喜多康夫さん（10回生）を紹介します。

「気まま尻馬・環境ボランティア」を自称し、地球温暖化防止関連の活動に取り組んでおられます。

現役引退後の時間をどの様に過ごすかという観点でも各世代の同窓生に大いに刺激を与えるはずですよ。



砂漠に植え付け作業をする筆者

自治区内に点在する緑化基地で苗木を植える労働奉仕を何度か繰り返していたが、1週間前後のツアーで実質2～3日の労働では物足りなくなり、現地1～2ヶ月滞在してツアーの受け入れや植え付け後の灌水・育った若木の枝打ちなども手伝ってみた。日本の快適な生活環境とはかけ離れた別世界ではあるが、「人に強制されるから」ではなく一種のスポーツ感覚でやっていると、全身を使った肉体労働は結構気持ちのいいものだった。しかし、日本の安全快適な生活からかけ離れた生活は刺激的である代わりに体力気力も必要であり、2012年を最後に遠ざかってしまった。現地で働く中国人とのコミュニケーションのためには中国語も少しはしゃべれなければと「60の手習い」を始めたものの、毎週数時間程度の勉強ではモノになる筈もなく、現地で暮らしてみるため北京の日本語学校に職を得て1年半ほど単身生活をやってみた。それでも期待ほどの上達はなかったが、植林地だけでなく中国各地を一人旅するにはそれなりに役立った。

沙漠緑化はさておき温暖化問題全般についての懸念は増すばかりで、問題の根源を知る努力（各種セミナーなど参加）や周囲の人々に対する知識の普及活動（小学校向け出前授業や市民対象の啓蒙活動）、化石燃料や原発に頼らない持続可能社会実現要求の行動（再エネによる市民発電所建設・運営の手伝い、政策に対するパブコメ提出、各種集会やデモに参加）、自分でできるエコな生活など、気の向くままにできる範囲で手を出してきた。項目だけ挙げると幅広く活動しているように見えるかも知れないが、現実



砂に埋もれるカラホト遺跡

面白そうなところどころにちょっとだけ手を出す所詮「隠居の暇つぶし」の繰り返しで、多少の自己満足はあるものの威張れるような成果は何も無い。この数年目立つ各地の気候災害の報道を見て、将来に対して不安を感じている人は少なくないと思う。2015年末COP21では「産業革命以来の世界平均気温上昇を2℃未満に保ち、1.5℃に抑える努力をする」というパリ協定が採択されたが、その実現にはこれまで排出削減が叫ばれながら増加し続けてきた温室効果ガスの排出量を、これまでの増加の速度と同等またはそれ以上の速度で減少させなければならず、社会の大きな転換が求められている。欧米先進国に限らず中東産油国や中国などが初期の経済性よりは中長期的視野から再生可能エネルギー活用を大きなビジネスチャンスとして強力に取り組み、その結果経済性の問題もほぼ解決しつつあるのに対し、既存インフラの制約や既存産業の利害に配慮する一方社会転換に必要な初期コストを短期的再エネの経済性に加算して再エネ活用のペースを遅らせ、結果として再エネ関連産業の国際競争力を失いつつある日本は、今後どうなるのだろう。「変わり者」の偏見かも知れないが、日本人は一般に周りと同調するのが好き、良く言えば「協調性がある」悪く言うなら「自主性が無い」人が多いのではなかろうか。特に昨今は「KY」とか「忖度」とかいう言葉が幅を利かせ、大勢と異なる意見や行動で疎外されるよりも、強者に従い流れに身を任せることで安堵する人が増え過ぎているように見える。皆が皆行く末を見ることがなく流れに身を任せていると、社会はとんでもない急流となり取り返しのつかないところに至るのではないかと心配になる。

私が学んだ当時の長崎東高・第2代校長・梅田倫平先生が口にされた「梅は梅、桜は桜」という言葉は忘れられない。当時は何となく聞き流していたが、年を経るにつれ他とは違う自分らしさを失わないことの大切さを確信し、「変わり者」であることを誇りに思うようになった。人生の終盤に入り多くの同世代人との付き合いがあるが、中でも長崎東高の同期生はそれぞれ異なる人生を生きながら気楽に付合えるのも、それぞれ強い自我を持ちながら、お互いの個性を尊重する気風が共通するからではないかと思う。（10回生 喜多康夫）

◆◆ 編集後記 ◆◆

「活躍する同窓生」コーナーのタイトルを「東風ら関西」に変更しました。喜多さんご指摘の「強い自我を持ちながらお互いの個性を尊重する気風」はどの世代にも共通する伝統的な東高気風だと思います。この東高気風を関西発で発信していきたい。ボーリング同好会「ピン跳ねかつちえろ会」が発足し、2月から定期的な活動がスタートしています。第1回大会の盛り上がりや紙面が足りず紹介できませんでした。詳細はホームページをご覧ください。